Beisia

News Letter

2022 年 7 月吉日

～父の日かっこいいエピソード受賞作品 10 作品～

私の夫は、三人の子供のパパで、「進(すすむ)」という名前の通り、毎年毎年進化し続けています。
出会った大学の頃から自炊はお手のものでしたが、マイホームを購入した辺りからその進化は加速して、
家のことは一通り自分で手入れするまでになりました。
子どもたちのお弁当づくり、スコーンやショートブレッドなどのお菓子づくり、お花やハーブの苗を購入してのガーデニング、家の周りの木の伐採、エアコン洗浄、家電の修理、**本業は薬剤師。**

私よりもずっとずっと「育てる」ことが上手なパパで、
毎年父の日を迎える度に全力で進化する夫を讃えたくて仕方のない私です。
子どもたちはそれが当たり前のようですが、出会って 24 年間ずっと見守ってきた私にはとても眩しく自慢の夫です。
この企画に参加することで、堂々と大っぴらに夫・パパ自慢が出来て、とても清々しい気持ちでいっぱいです。
ありがとうございます!

ベイシア都田店の駐車場で大学生が乗っていたレンタカーがパンクをし、二十歳ぐらいの男女 5 人が雨の中試行錯誤しながらなんとかタイヤ交換をしようとしていました。
パパは車の整備士をしていて「助けるぞ！！」と雨の膝をつき、ささっと作業しているその背中をみて「この人と結婚してよかった♡」と改めて思いました。
話を聞くと静岡市からサーラホールで開かれたコンテストに参加するため、静岡駅から電車で浜松駅まで来て、浜松駅からレンタカーを借りて来ていたとのことでした。
タイヤ交換も終わり片付けをしている中、平謝りする大学生たちに「**誰かが同じように困っていたら助けてあげてね**」と話しかけて場を和ませていました。

帰宅後「買い忘れがあるから出てくる」とすぐに必要でもない物を買いに現場に戻って無事に帰ったことを確認した責任感の強さもパパの魅力です。

高齢の父なので、今まで一度も、パパとは呼んだ事はありませんが。
私の父は、職人気質の頑固者で、大工をしていました。実家は、父親が建てた物でした。そんな父が、私の子供が生まれた頃から、変わり始め、孫を車に乗せて、色々な場所に遊びに連れて行ってくれました。

昔からずっと続けている詩吟では、生徒を指導したり、70 歳を過ぎた頃からは、パソコンを覚えました。スマホも家族の誰よりも早く使い始め、85 歳になった今は、野鳥の写真撮影が趣味で、晴れている日は、毎日、カメラを持って出掛けています。ここ数年は、インスタグラムも始めて、毎日投稿しています。
年齢に関係なく、新たな事に、次々チャレンジして、イキイキと楽しく過ごしている父は、本当にかっこ良く、これからも、元気でいてほしいなぁと、願っています。

弟の誕生日、私の入学祝い、父と母の結婚祝い。
我が家でお祝い事のご馳走と言えば、寿司よりピザより、断然焼肉だった。そして、焼肉を焼くのは必ず、焼き奉行の父だった。
優しく穏やかな性格の父は、一枚いちまい、丁寧にじっくり焼いた。自分の取り分はそこそこに、とびきりの状態のお肉を、家族の皿に届けてくれた。
「タン塩はお肉でねぎを挟んで焼くと、ねぎが蒸し焼きになって甘くなるんだ」「カルビは肉汁が落ちないように端で焼き加減を確認して、ひっくり返すのは一回だけにするのがコツなんだ」など、そっと口うるさくない口調で、こだわりやうん蓄を教えてくれた。そして私たち家族が肉を頬張り、「美味しい」と伝えると、自分が美味しいものを食べたように、びっくりする位喜んでくれた。

ある日、バレー部の県大会で負けて帰ったことがあった。大事な場面で相手の強いサーブを拾いきれなかった私は、敗戦の責任を感じていた。
帰宅すると、父は「おなか空いただろ」とだけ声を掛け、食卓に私を座らせ、肉を焼いてくれた。いつものうん蓄を語ることもなく、肉が焼ける音だけが響いた。だが、父が私の皿に乗せた肉は、悔しいことに今まで食べてきた肉の中で一番美味しかった。
私が試合に勝っても負けても、父は私に焼肉を食べさせようと思ったのだ。
笑顔になってほしいと思ってくれたのだ。父の静かな願いを感じ、私は少し泣きそうになりながら、「美味しい」と笑った。父は、「そうか」と呟くと、安心したように笑って目を細めた。

今年の夏は二年ぶりの帰省になる。我が家の焼肉も実に二年ぶり。トングを持って、私が焼き奉行になる予定だ。お肉の焼き方もペースも、知らず知らずのうちに継承されてきた。そして笑顔になってほしいという想いは負けないつもりだ。多分落ち着かないかもしれない父から、最高の笑顔を受け取りたいと思う。

私が小学生～高校生の頃、母の更年期が重なり、それまでほとんどやって来なかった家事を自然とこなすようになっていった父。
反抗期真っ盛りの私と２つ年上の兄がいて「お母さんは今大変な時だから家族で協力して支えてあげよう」と机の上に書き置きがありました。
父の母への愛。私達への愛。

その頃から料理にもハマり、今では趣味で野菜を育て私達が帰省するとご馳走を振舞ってくれるのは父です。家の中を綺麗にしておいてくれるのも父です。
そうです、**母は更年期を機に家事を父に任せる作戦に大成功**してしまったのです。
それでも今でも母には感謝でいっぱい、と、母の日、誕生日などの記念日にはプレゼントをしたりと素敵な父です。
最近その話を同級生にしたら「実は中学生の頃、〇〇(私)のお父さんみたいな人と結婚したいなぁと思っていたんだよ～素敵な人だよね」と言われました。
そんな自慢のお父さんが私は大好きです。

２年前、主人と港で釣りをしていた時、途中私は疲れて車で休んでいたのですが、急に主人が車に乗り込み車を急発進させました。
何事かと聞いても無言で猛スピードで港の中を走り、急停止したかと思うとトランクからロープを取り出し、ロープの先を輪っかに縛り海に向かって投げていました。私も訳が分からず海を覗くと、犬を抱えた男性が今にも沈みそうになっていました。
主人は**ロープを男性へ投げ、掴むよう声を掛け、梯子の場所へと誘導し、犬と男性を無事に助けていました。**

後から聞くと犬が男性の車から逃げ出し海に落ち、その犬を助けようと男性が海に入る所を見ていたそうで、車の中で無言だったのはどう助けようか手順を考えていたと言います。
海に落ちた男性は泳げず、犬を助けようと必死で海に入ってしまったそうです。うちの主人がいなかったらと思うとゾッとしました。不測の事態でも冷静に救助をした主人をとても誇らしく思えた日でした。

私の父は、宇宙一かっこいいと思います。
私は、保育園に通っている頃、いじめられていました。それに母は気づいていなかったのですが、父はある日こっそり相談に乗ってくれました。
父は、私の話を「そうかそうか、辛かったね。」と受け止めてくれました。不思議だったのは、その次の週から、いじめっ子たちはなぜか私と普通に遊んでくれるようになったのです。父に聞いても「何も知らないよ。」と言っていたので、今まで信じていました。

しかし、先日祖父に聞いてみたところ、父は私のために**心理学やカウンセリングの勉強を深夜にしてくれていた**だけでなく、担任の教師や校長先生にも話を通して、根を回して解決に導いてくれたのだと知りました。
私は小さい頃、父が仕事で夜遅く帰ってくることを不満に思っており、辛く当たってしまっていた事もありました。しかし、それもこれも私のためで、父には感謝してもしきれません。私の父は宇宙一かっこいい、自慢の父です。

小さい頃はすごく仲良しで 2 人とも**大好物な唐揚げ**を不器用ながらよく作ってくれたお父さん。
私が高校生くらいの時から反抗期であまり話さなくなりました。そのまま高校を卒業して直ぐに就職し、一人暮らしをしていた私は、お母さんとはたまに連絡は取るけどお父さんとは疎遠のままでした。
慣れない一人暮らしと忙しい仕事。毎日毎日アパートと職場の往復しかしていませんでした。

疲れて、どうしようもなくなった時にお母さんに電話をしても不在着信だった為、お父さんに電話をかけました。
昔よりしゃがれた声のお父さんが「**もしもし？どうした、唐揚げ作ってやるか**」と私はまだ何も言ってないのに言ってくれました。
私は涙が止まりませんでした。何も言わなくても私の気持ちをわかってくれるお父さんはとってもかっこよく感じました。それから、父の日には実家に帰って唐揚げを作って家族みんなで食べています。

私がまだ若い頃。社会人になり車を運転するようになって夜な夜な友達と遊び歩いていました。実家は面白くないし寝に帰るだけの日々でした。両親ともあまり会話をしていなかった気がします。
そんなある日、深夜に自分の不注意で車の事故を起こしてしまいました。11 月の寒ーい日でした。事故現場は実家から 20 キロくらい離れた場所で私は知人と一緒に親が来るのを待っていました。
その日父は夜勤で、早退して母と駆けつけてくれました。
父はその場に着くと、知人を被害者の方と思ったらしく、走って来て「この度は、申し訳ありませんでした！！」と頭を下げてくれました。
それを見て「**理由も無く純粋に自分を心配してくれる人は両親しかいない**んだな」と思いました。
今まで両親に反抗していた自分が恥ずかしくなりました。

今では私も家庭を持って子供もいるので子育ての大変さを日々感じています。
今でも時々思い出します。
あの時の父の謝罪は親として、父としてかっこよかったなぁと思います。

ウチのパパは、結婚する前から、日々、些細なことを含め家事全般(買物)など気づけばサラっと手助けをしてくれて、どんな時にでも、日々いつでも『**ありがとう**』の感謝の言葉を口に出して言ってくれます。
私にしてみたら、こちらが先に、いつもありがとうと言わなきゃいけないのに、ほとんど先を越されてしまうので、お互いに『ありがとう』の言葉の授受をしています。

パパ言わく、『**ありがとうには感謝の気持ちがこもっているから、言う側も言われた側も、笑顔になれる魔法の言葉**なんだよ、ありがとうの言葉を交わしていたらハッピー指数が増えてくよ』って言ってます。そんなことを思い言ってくれるパパは、内面からカッコいいので年々ホレなおします。